

まっちゃんぐ

街 ing いばらき NEWS

No. 248

2023年

10月号

(毎月25日発行)

長谷川誠子

9月例会 議事録

日時： 令和5年9月7日(木) 14:00~16:00

場所： 川本本店 茶論[縁](さろん「えん」)

出席者 10名 川本 阪田 阪田 笹嶋 杉田 鈴木 南野 長谷川 藤原 牧

- 1 10月20日(金)に京都迎賓館を見学。4~5ページに案内書を掲載しています。昼食は京都ガーデンパレス。ガイドツアー2,000円、昼食3,000円。
- 2 11月29日(水)石山寺周辺を散策。案内は先月9月号に掲載済み。昼食は石山寺門前の湖舟。昼食は「しじみ釜めし」をいただきます。昼食代1,800~2,800円。
- 3 12月15日(金)に河原町周辺散策を散策。昼食は北京料理の東華菜館。現存する日本最古のエレベーターが稼働しています。 南野さんと牧さんに企画をお願いしました。
10/5(木)の例会で案内する予定。
- 4 今後の例会実施日 10/5(木) 11/2(木) 12/7(木) 1月なし 2月なし 3/7(木)
4月なし 5/9(木) 6/6(木) 7/4(木) 8月なし 9/5(木)
- 5 10月5日(木)の街 ing 例会には会員以外の方もお招きしています。懇談時間は約1時間。進行中の茨木と次の茨木について語っていただく予定です。

以 上



「知らんけど」

「何でやねん」と並んで代表な関西弁が「知らんけど」です。大阪では、会話の最後に「知らんけど」を付け足すのをよく耳にします。テレビやネットで目にした情報を話題にする際、「こういうことらしいで。知らんけど」と言葉を加えるのが一般的な使い方でしょう。個人的な見解だったり、曖昧さを含む内容の場合に、責任逃れや照れ隠しの意味合いも含まれているようです。内容の真偽に関係なく、場をなごませる手段としての効果も期待できます。会話の面白さを優先して持ちネタを披露し、「知らんけど」とオチをつけるパターンです。

「知らんけど」の背景には、関西独特の文化もあるようです。江戸(東京)は武士の社会で、責任のある言動が何より大事でした。一方大阪は昔も今も商業都市で相手を楽しませる会話は、新たなビジネスの創出につながり、日ごろから笑いを重視する必要があったのでしょう。相手がつっこまずにはいられない笑い話をあえて盛り込み、取引先との距離感を縮めるのも商談のテクニックなのです。

関西弁で興味深いのは、言葉の表現力の奥行きです。話し相手への配慮、思いやりが込められているという説もあります。代表的なのは「行けたら行くわ」。本当は行けないのに、その場ではあえて断言しないという話し方です。

「知らん」は語尾で意味が変わります。

知らん	本当に知らない
知らんわ	私も知らない
知らんし	どうでもいい
知らんねん	知らなくて申し訳ない
知らんがな	関係ない/興味ない
知らんけど	確信はない/責任は持てない



どうです、この表現力。関西弁は奥深いですね。これを習得している関西人は言葉の達人と言っても過言ではありません、知らんけど。

イオンの歴史

1758 年(明治維新より約 100 年前の江戸時代)、イオンの源流のひとつである岡田屋が三重県四日市市で創業しました。当時は衣料品をあつかう小売商でした。約 200 年後の 1969(昭和 54)年、「小売業の近代化」を目指し、岡田屋と兵庫県姫路市のフタギ、大阪府吹田市のシロの 3 社が合併し、「ジャスコ株式会社」が設立されました。新社名は「日本ユニテッド・チェーン株式会社」が従業員の公募で選出されたものの、その英語訳である **"Japan United Stores COmpany"** の頭文字をとって日本語読みした「ジャスコ(JUSCO)」が正式採用されました。

以降、自動車社会の到来を予見した郊外型ショッピングセンター開発や金融サービス事業の開始、日本全国のさまざまな小売業との提携を繰り返しながらジャスコは成長を遂げてきました。1989 年、さらなる成長・発展を目指し、「ジャスコグループ」から「イオングループ」へ名称を変更し、2001 年には社名も「ジャスコ株式会社」から「イオン株式会社」に変更しました。「イオン(AEON)」は、ラテン語で「永遠」を意味します。お客さまへの貢献を永遠の使命とし、その使命を果たす中でグループ自身が永遠に発展と繁栄を続けていくとの願いが込められています。その後も提携、合併を重ねています。イオンの歴史は合併の歴史でもあるのです。

シロ茨木店は、かつて阪急茨木市駅北側の永代町にありました。その後 1986(昭和 61)年ジャスコ新茨木店として、現在の位置に移転しました。ジャスコ新茨木店の初代店長は、現在イオン社長の岡田元也が務めていました。2017 年(平成 29 年)に全館を改装し「イオン新茨木」から「イオンスタイル新茨木」に名称を変更。これと同時に玩具や子供服などの取り扱いがなくなりました。年齢層の高い顧客に焦点を合わせた店づくりにし、JR 茨木近辺にあるイオンモール茨木(旧マイカル茨木)とのバランスをとっています。阪急茨木市駅周辺にはかつてダイエー、トポスがあったのをはじめ、長崎屋、ニチイ、JR 茨木駅周辺にはイズミヤといった競合店が乱立していましたが、現在はいずれも閉店しています。この状況をみればイオンの一人勝ちのように見えます。ともなって商店街の集客力も衰えています。ジャスコ創立時の社長であった岡田卓也(現イオングループ名誉会長 98 歳)は規模の拡大を追求した小売業の産業化を目指していました。合併により規模が大きくなり、消費者も大量消費の楽しさと便利さを享受しています。同時に地元の商店街をどのようにして活性化していくのかも地域の重要課題になっています。



現代に継承する日本文化の粋“京都迎賓館”参観

令和5年10月20日(金)

水先案内人:牧 彰(会員)

私たち日本人にとって、京都は特別な存在です。1,200年に及ぶ長い歳月の中で研ぎ澄まされてきた美意識は、芸術の世界だけに留まらず、日本人の衣食住の隅々にまで行き渡り、ひとつの生活総合芸術ともいべき世界に類のない日本文化を創出してきました。

東京の“赤坂迎賓館”は、文明開化期日本の優れた知識人や匠たちが、持てる能力を結集して成し得た近代建築(1909年竣工、ネオ・バロック様式)の傑作です。

一方、“京都迎賓館”は、海外からの賓客をわが国固有の伝統と文化で真心籠めて“おもてなし”することにより、「日本への真の理解と友好の絆を一層深める」ことを意図して、2005年に開館しました。



“庭屋一如”を体现した緑と水の庭園

“京都迎賓館”は、日本の伝統的建築の技法を現代の工学・工芸技術を駆使して再構成しました。此処の庭は、京都御苑の豊かな緑を借景とし、広々とした池水を中核に時々刻々と様々な表情を変えつつ、周りの環境に融け込むように配慮されています。

これこそは、古より日本の居住環境に一貫して培われてきた“庭屋一如”の理念なのです。“京都迎賓館”は、四季の変化と移ろいある風土をこよなく愛し慈しんできた先人たちの“自然観と美意識の結晶”でもあります。

知的好奇心頗る旺盛な「街ing いばらき」の皆さん！この国に連綿と息づいている“おもてなし”の心に触れる小さな旅(“京都迎賓館”参観)に繰り出そうではありませんか！？

◇参集地：阪急「茨木市」駅改札口8：20(時間厳守)

◇順 路：「茨木市」8：31⇒「烏丸／四条」⇒「今出川」～乾門～御苑(近衛邸跡・猿が辻など)～10：15 京都迎賓館 11：45～御苑(閑院宮邸跡・九条邸跡・鷹司邸跡など)～蛤御門～護王神社～13：00 花ごよみ(昼食)～<京都御所自由観覧(オプション)>～「丸太町」⇒「四条／烏丸」⇒「茨木市」

◇昼の宴：会席風お弁当“花投扇”3,000円 京料理・花ごよみ(075-411-0404)／京都ガーデンパレス



会席風お弁当<花投扇>

投扇興は、江戸時代の室内遊戯。寛永通宝12個を蝶形に包んで金紙や銀紙で裏打ちし、金銀の水引を掛けたもの(的玉)を、蒔絵の枕台の上に載せる。

それに12骨の扇を投げて的の落ち具合や扇の開き具合によって勝敗を競う。

投扇者は扇の4倍の長さの距離(約1m)にある投席に正座して、右手で扇の要を先にして投げる。

明治中期頃までは広く行われていたが、現在では京都・祇園などの花街でわずかに行われている。

『広辞苑』

◇参観料：京都迎賓館2,000円(ガイドツアー方式)

◇定 員：20名(会員には、会より1,000円の補助あり。)

◇申込先：「街ing いばらき」代表・阪田 浩(080-1436-9881) 申込締切り8月31日

Tel&Fax/072-627-3480 E-mail:ibarakisakata@crux.ocn.ne.jp

※ 本会行事は、自由参加です。不測の事故・傷害などは、自己責任でご対応ください。



設計コンセプトは“庭屋一如”

京都迎賓館では、日本の伝統的建築の空間創りの技法“庭屋一如”の概念を、新たな現代技術で再現しました。日本庭園は、四季の変化と移ろいある日本の風土をこよなく愛して、自らの姿を自然の中から映し出す日本人の自然観・美意識を端的に表しています。京都迎賓館では、その庭園と建築が一体の空間となり、海外からの賓客を心から“もてなす”ことが最も肝要と思われます。そのために、深い軒で庭園と室内を結びつける“縁”の存在や、庭園への眺望が伸びやかに開ける水平な広がり、庭園が見え隠れする雁行配置、“しつらえ”によって自在に用途を変転する室内空間など、真に日本建築だけが創出し得た空間の質を現代技術で再生することこそ、京都迎賓館に託された“本来の使命”であると心得ました。

建屋の設計は、自ずと平屋建てに大屋根を架けることから始まりました。内外装から判断して一見して木構造のように見えますが、主構造は鉄骨造・鉄筋コンクリート造（一部鉄骨入り）です。土庇の如き伝統的木造架構や、日本特有の細やかな空間のプロポーションを体現する“木の構成材”が、外来客をもてなす迎賓館に相応しい大振りな木割の“鉄の構成材”の内外に、緻密に組み立てられています。また、鉄筋コンクリート造の耐震壁が、分からないように随所に配置されています。

外部の佇まいは庭園と屋根だけで構成されていると思えるほど、此处では屋根が重要な役割を果たしています。鉄筋コンクリート造の屋根版を下地とする屋根材は、耐候性に優れたニッケルとステンレス・スチールを圧着した複合材です。表面の色彩は酸化ニッケル本来の暗緑色であり、素材そのままの仕上げが、京都御所の緑豊かな周辺環境と絶妙に調和を奏めています。この建材は屋根葺き材としては固過ぎて曲げ難いため、その施工に多くの熟練した職人の手を煩わせました。

ところで、迎賓施設として必要な延床面積 16,000 m²という規模に対して、敷地面積は 20,000 m²ほどであり、庭園を考慮すると決して広い敷地とはいえません。この立地条件で外観を平屋建てに抑えるため、サービス施設（主厨房・機械室・駐車場・倉庫など）は全て地階としました。地上は賓客のための居室のみとし、地下は全体面積の凡そ半分を占めています。その結果、各種のサービス動線は全て地上・地下の上下間だけで、居室エリアで賓客動線とサービス動線が平面的に交錯することが避けられました。

京都迎賓館では、現代の技術・材料を積極的に使いながら、限定した材料で細部に至るまで細やかに注意して全体の調和を図るという、先人から伝えられた日本古来の控えめな美意識が随所に見られます。

（日建設計「設計コンセプト」より）



ザファーム ユニバーサルのB B Q

杉田 宗三

茨木市佐保にある関西最大級のガーデンセンター（ザファーム ユニバーサル）に、この夏新しく「Grape Farm（ぶどう園）」エリアが登場。大きな屋根の下でバーベキューも楽しめるエリア「FARMER'S BBQ by the Farm UNIVERSAL」がオープンしました。

バーベキューは3日前までの完全予約制。

オススメ1 雨の心配がいない

オススメ2 BBQ 利用は手ぶらでOK!

駐車場も広くて、家族連れのお出かけにもぴったり。 とのこと。



（注）ユニバーサル園芸社ガーデンセンターは2015年4月にガーデンセンター「THE FARM UNIVERSAL」（ザファームユニバーサル）として、リニューアルオープンしている。





日本はどうして 漢字 を残しているのか

杉田 宗三

～華字メディア・日本華僑報に掲載された「韓国はなくしたのに、日本はどうしてまだ漢字を残しているのか」を Record China が紹介した記事の要点～

かつて一部の韓国のネットユーザーらが「われわれは漢字なしで生活できる。漢字は煩雑で後進的な物。世宗大王が言ったように、ハングルは容易に習得できるため、漢字よりハングルの方が完璧な表記システムだ」と主張したことを挙げる一方、「日本は中国文化を尊重しているためネガティブな感情はなく、漢字廃止を叫ぶ人もいない」と説明。

「そのため日本語はより包容力を増し、豊かな表現手段を有することで極めて先進的な言語になる一方、ハングルはガラパゴス化している」と論じた。

また、「日本は近代に無数の新たな言葉を生み出し、中国に“逆輸出”してさえもいる」と述べ、「残念なことにわが国でも漢字の廃止をめぐる混乱したことがある」とし、魯迅が「漢字が滅びなければ中国が必ず滅びる」「漢字の難しさは多くの人民を、前進する文化から永遠に切り離している」などと述べて漢字廃止を主張したことに言及。「幸い、1950年代から中国では識字運動が展開され、識字率が大きく向上したことで、『漢字が識字を阻害する』というこの主張は理を失った」と説明した。

次に、「逆に韓国では漢字廃止の反動を実感したのではないか」と指摘。「韓国では現在、民間企業が戦時中の旧日本軍による慰安婦強制連行を証明する文書を非常に多く所持しているが、漢字が廃止されて人々は教科書に書かれた歴史こそが正しいと認識してしまう。李承晩政権とその後継者たちは、政府が外交問題を処理しやすいように教科書をでっち上げているのだ」と主張した。

そして、「このように一つの言語システムが激変すると、人民の知る権利が阻害されることになる。漢字廃止によって自国の文化や歴史を破壊するのは、まったくもって下策であることが分かる」と言及。

記事は、「日本はなぜ漢字を廃止しないのか、というのはまったくの偽命題であり、その必要がないからである。日本語は大幅に文字数を削減し、文の認識度を上げ、情報伝達の効率を向上させている。これは、言葉の存在や消滅を考える際の最も基本的な基準ではなかろうか」と結んだ。

(注)「Record China」は中国の時事情報を日本に紹介するサイトを運営する日本の会社の中国時事情報のニュース・ナビゲーター

次回のイベント

街歩き 10月20日(金) 京都迎賓館周辺 阪急茨木市駅 8時20分 集合

—— 次回『街ing いばらき』例会のご案内 ——

日 時： 令和5年10月5日(木) 14:00～16:00

場 所： 川本本店 茶論「縁」 (サロン「えん」)

住所： 茨木市上泉町6-29 TEL：072-624-5552

- 内 容：
1. 会員以外の方との懇談会
 2. 10/20(金)の京都迎賓館 11/29(水)の石山寺
 3. 12/15(金)の河原町周辺散策 他

『街ing いばらき』とは？

茨木のまちづくりを考える市民グループです。といってもあまり硬いことではなく、月一回の例会や年5回程度の街歩きを行っています。

参加資格は問いません。入会に関心のある方は、お問い合わせください。

とりあえずのご見学や、イベントの単発参加も歓迎します。

入会金 1,000円 会費 年間2,000円(一か月170円)

10月

« 編集後記 »

- 10月5日(木)の例会には会員以外の方との懇談会を予定しています。街ingの中だけでは知れない情報を語っていただく予定です。これからの茨木について考える機会にもしたいと思っています。資料の用意などで事前準備が必要です。出席される方は事前に連絡をいただけますでしょうか。
- 10月、11月、12月とイベントを年内に3回計画しています。「建物見学プラス昼食をちょっと贅沢に」路線は継続していきます。ぜひご参加ください。

« 編集・発行 »

阪田 浩 〒567-0881 茨木市上中条一丁目10-22

Tel/Fax 072-627-3480 e-mail: ibarakisakata@crux.ocn.ne.jp

街ing ホームページ : <http://www.machiing-ibarakiki.com/>

ホームページは杉田さんが作成されています。ときどきはのぞいてみてください。

2023年9月現在での訪問者は10,030 <前月比20の増加> となっています。

